

(代表質問)

質問日	令和7年9月24日(水)		質問方式	分割方式			
質問順位	3	会派名	創造浜松・ 国民民主党浜松	議席番号	22	氏名	太田 利実保
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 予算編成方針について	<p>令和8年度予算編成から、限られた財源を各部、各区、各局に配分する財源配分方式を採用している。</p> <p>予算編成の効率化や歳出抑制効果、また、各部区局において事務事業見直しの動機づけや自主的な判断に基づく予算への反映などの効果が期待できる。</p> <p>こうした予算編成手法の変更、予算編成の考え方など、令和8年度予算編成方針が示されたところであるが、以下伺う。</p> <p>(1) 令和8年度予算編成方針における重点施策について伺う。</p> <p>(2) 全件査定から財源配分方式に改める理由とその効果について伺う。</p> <p>(3) 配分基準の透明性、公平性の確保と、既存事業の見直しや市民サービスへの影響について伺う。</p>						<p>中野市長</p> <p>鈴木財務部長</p> <p>〃</p>
2 外国人材の受け入れについて	<p>本年6月に閣議決定された骨太の方針に、出入国管理の一層の適正化、社会保障制度の適正化、観光・短期滞在者の犯罪・迷惑行為等への対応強化が示され、各省庁横断的な司令塔体制をさらに強化するため、国は7月に外国人との秩序ある共生社会推進室を発足させた。</p> <p>一方、外国人材に頼らざるを得ない職種があることは事実である。これまでは主に労働力不足を補う受け入れが中心であったが、今後は、高度外国人材や労働力の獲得に向けた取組をさらに推進していくとしている。</p> <p>本市は多文化共生の先進市として各種施策を実施しているが、外国人の比率が高まることで、さらなる施策の充実が求められる。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 市内組織の連携、また、県や他の行政機関との連携による受け入れ体制の強化について伺う。</p> <p>(2) 地域社会との共生に向けて、自治会の負担などの課題についてどう考えるか伺う。</p> <p>(3) 日本語教育をはじめとした日常生活支援に関し、受け入れ企業の役割について伺う。</p> <p>また、外国人の労働相談窓口を強化することについての考えを伺う。</p>						<p>中野市長</p> <p>工藤企画調整部長</p> <p>北嶋産業部長</p>
3 インターナショナルスクールについて	<p>家族帯同の高度外国人材受け入れのためのインターナショナルスクールの誘致に当たり、先月、運営候補者がグローバル・インディアン・エデュケーション(株)</p>						北嶋産業部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>に決まった。</p> <p>インターナショナルスクールは学校教育法第1条に規定する学校として認められたものもあるが、多くは同法第134条に規定する各種学校或いは無認可校として存在するものが多い。</p> <p>日本人の子どもがインターナショナルスクールに通うケースが増えているとの報道もあり、そうしたケースを想定しておく必要があると考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) インターナショナルスクール運営候補特定の経緯と開校後の本市の財政負担の考えを伺う。</p> <p>(2) 日本人の子どもが通うことになった場合の教育委員会の関わりについて伺う。</p>	
<p>4 介護人材不足への対応について</p> <p>(1) 介護業務のデジタル化について</p> <p>(2) 外国人介護人材の受け入れについて</p>	<p>本市の65歳以上人口は、今後20年ほどは増え続ける。人口構成割合は40%に近づき、高齢者のみの世帯、身寄りのない高齢者世帯も増えるため、介護施策に頼らざるを得ない高齢者は増加していく。</p> <p>はままつ友愛の高齢者プランで示された介護人材の需要と供給の推計では、現状約600人の供給不足が10年後には2500人になるため、差を埋めていく必要がある。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 人材不足解消のため、介護ロボットの導入などデジタル化が検討されているが、思うように進んでいない。コスト面の課題もあるが、そもそも介護ロボットなどの情報に接する機会が少ないのではないかと考える。</p> <p>介護人材不足の現状認識やデジタル化の現状、デジタル化に向けた今後の支援について伺う。</p> <p>(2) すでに多くの外国人材が介護分野で活躍しているが、外国人材に期待する声は今なお根強いものがある。県では、海外高度人材活躍支援事業の対象に特定技能「介護」を加え、インドネシアなど現地での合同面接会を開催し、内定から入国、定着までをサポートする体制をとっている。</p> <p>また、特定技能とは別に、まず留学生として受け入れ、日本語学校で学び、介護資格取得という流れの確保策もある。</p> <p>こうした県の施策と連携を図るとともに、本市が連携協定を結んでいる海外諸都市間の介護人材確保の取組について考えを伺う。</p>	<p>小松健康福祉部長</p> <p>中野市長</p>
<p>5 産業人材の育成について</p>	<p>文部科学省の委託事業で、令和4年度に浜松城北工業高校が指定を受けたマイスター・ハイスクール事業は、産業界と県・市が一体となって最先端の職業人材を育成することを目的としている。</p>	<p>北嶋産業部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>ロボティクス・デジタル分野での取組で、ヤマハ発動機（株）が実習環境を提供するほか、地元企業がものづくり現場への見学を受け入れる等専門性を高めている。</p> <p>こうした取組をロボティクス分野だけでなく、本市が重点を置く他の成長分野にも適用することができないかと考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 浜松城北工業高校におけるマイスター・ハイスクール事業のこれまでの成果について伺う。</p> <p>(2) 地域人材のエコシステム化構築に向け、ロボティクス以外の分野や、他の高校の専門学科への広がりを含めた今後の展開について伺う。</p>	
<p>6 少子化対策について</p> <p>(1) 婚活事業について</p> <p>(2) ライフプランに関する啓発について</p> <p>(3) ハラスメント防止と職場風土について</p> <p>(4) 少子化対策と教育について</p>	<p>昨年の日本の出生数は68万6061人で初めて70万人を割り込んだ。今年の上半期の出生数33万9280人も過去最少を更新した。本市の出生数は2023年が4561人であり、2016年の6558人から約30%も急激に減少している。</p> <p>市では医療費や保育料の無償化、奨学金返済支援など若者や子育て世帯の負担軽減に取り組んでおり、企業もワークライフバランスを考慮した職場環境づくりに取り組んでいるものの、未婚率は増加している。</p> <p>結婚しない理由は「適当な相手に巡り合わない」が突出して多いが、結婚願望を抱く割合は約8割と決して低くないため、出会いの場を作ることの意義は大きい。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 昨年から婚活事業を始め、今年はメタバース婚活に取り組んでいるが、企業との連携など婚活事業を拡充していく施策について考えを伺う。</p> <p>(2) 人生設計や結婚について安心して相談できる環境づくりや、ライフプランに関する啓発について伺う。</p> <p>(3) プライバシーの尊重やハラスメント防止は極めて重要だが、過度な萎縮は職場等の風通しを悪くし、自然な人間関係や出会いのきっかけを損なっていることもあるのではないかと考える。</p> <p>ハラスメント防止と職場風土づくりのバランス構築について考えを伺う。</p> <p>(4) こども家庭庁が公表した令和6年度「若者のライフデザインや出会いに関する意識調査」では、自己肯定感が高く、何事にも意欲的に取り組む未婚者は結婚意識が高い。未婚者の出会いの機会が少なかった理由は「自信のなさ」といった心理的・内面的な要因が深く関係しているとされている。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>ア 自己肯定感を高める教育について伺う。</p>	<p>野田こども家庭部長</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>野秋教育長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>イ 将来を見据えた社会の創り手を育てていくことが重要と考える。少子化対策を含めた持続可能な社会を構築していくための教育の役割について伺う。</p>	
<p>7 生ごみ処理について</p>	<p>(1) 微生物の力で高速分解して堆肥にするスマートコンポストの実証事業が、本年6月から8月にかけて行われたが、実証事業の成果と今後の展開について伺う。</p> <p>(2) 宮城県村田町にある(株)ハザカプラントでは、有機性廃棄物の高速堆肥化に取り組んでいる。長さ100メートルの発酵槽に有機性廃棄物10立米/日を投入し、10立米の土と混ぜ、25日かけてレーンを移動させていくことで、バクテリアの活動により、廃棄物は消滅し、最後はサラサラの堆肥に仕上がるものである。</p> <p>他にも民間での堆肥化の事例は多々あることから、民間事業との連携や、資源循環への取組促進を図るなど、さらなるごみ減量に向けての考えを伺う。</p>	<p>上田環境部長</p>
<p>8 中山間地域の持続について</p>	<p>先月、天童区内の5地区を対象に議員定数の方針決定に関する報告会が開催され、出席者から、施策への各支所の関わり方やコミュニティ担当職員に期待する意見があった。</p> <p>また、地域からは、広大な面積の天童区において、旧5市町村ごとの地域特性に応じた施策の実施を要望する声が聞かれる。</p> <p>人口が激減し、地域を担う人材が不足する中山間地域において、持続可能な地域づくりを進めていくため、行政としてどのように地域と関わっていくか考えを伺う。</p>	<p>水谷市民部長</p>
<p>9 船明地区大雨被害への対応について</p>	<p>本年8月16日の午後、天童区船明、山東地区を中心に局地的な大雨が降った。時間雨量は100ミリメートルを超え、累加雨量は432ミリメートルとなり、床上浸水7件、床下浸水約50件の被害が発生した。</p> <p>また、災害時の緊急輸送路でもある国道152号、362号が冠水によって同時に通行止めになったことは深刻であり、災害時の応急対応に支障を及ぼしかねない。</p> <p>度重なる船明地区の浸水被害に対し、原因究明のための調査を速やかに行い、地区全体の排水対策を検討することが必要である。</p> <p>また、当面の対策として、従前から進めている準用河川大堀川の速やかな改修、河川カメラ設置による避難情報提供、県の治山事業等との連携などが必要と考える。</p> <p>これらを踏まえ、船明地区全体の浸水対策について、今後の取組方針を伺う。</p>	<p>平井土木部長</p>